



和楽器に触れて
音を出してみよう



講師

木村俊介

小野越郎

場所

中札内村体育館

柔道室

会費
無料

日時

九月二十日(土)

午後一時から三時

お申し込み

中札内村図書館へ

又は SNS

 nakasatsunai_kagura



KAGURA 実行委員会
石田武志

中札内村での公演も今回で4回目となります。小島千絵子さんと木村俊介さんに加えて第1回公演 KINUNA に出演された小野越郎さんをお迎えし和の舞と音楽のイベントを開催したいと思います。

鼓童名誉団員の小島さんを世に知らしめた「花八丈太鼓」と秋田の民俗芸能「西馬音内音頭」を披露していただきます。今回はお二人の津軽三味線の連弾や、木村さんの伸びやかな笛の音色もとても楽しみです。

2026年の音楽と舞と造形の舞台、新シナリオ「舞姫」では音楽監督 木村俊介氏と軸である小島千絵子氏、和と洋の音楽と舞、造形、衣装など、様々なアーティストが集い、準備が始まっています。

その様子などQRコードからご覧いただけます。応援よろしくお願ひします。

出演者
プロフィール



小島 千絵子

1976年「佐渡の國鬼太鼓座」に入座、太鼓芸能集団「鼓童」名誉団員。栃木出身。太鼓中心の舞台の中で、独自の舞踊の世界を切り拓くと共に、女性ユニット「花結」や、ソロパフォーマンス「ゆきあひ」などで意欲的に表現の場を拡げて来た。2006年板東玉三郎演出「アマテラス」ではアマノウズメを演じ鮮烈な印象を残し、2012年度文化庁文化交流使としてヨーロッパ4カ所を訪問。女性の踊り手として太鼓に向き合った代表演目「花八丈」をモチーフにした千絵子流女打ち講座では、受講者に小さな革命を起こしつつ、各地で活動中。

木村 俊介 和楽器奏者（笛・三味線他）作曲家

和楽器奏者として活動する一方、演劇や舞踊など、様々な舞台作品の作曲・音楽監督を担当。自主公演では、国内外からの多彩なゲストと共に、文学・美術などをモチーフとした斬新かつ独創的な作品を発表し続けている。海外での活動も多く、これまでに5大陸35カ国にて招聘演奏。'20年より、エッセーとCDによる会員制季刊誌『音之文』（オトシブミ）を発行。'22～'23年、壤 晴彦氏主宰・演劇倶楽部『座』の舞台「ハーンの面影」「浜田広介動物三部作」などの音楽を担当。'23年より、カヤグム奏者・パク スナ氏との日韓定期開催LIVEプロジェクト『鵲の橋の上で』をスタート。（ソウル・オンマムシアター他）'24年、小野越郎氏、英国のピアニストKit Downesとのコンサート『Bitwixt mortality and immortality』を開催（ロンドン・Kings Place）

小野 越郎 津軽三味線 演奏家

秋田県仙北市生まれ。18歳より津軽三味線を山田千里師に師事し、本場青森県は弘前の民謡酒場にて修行を積む。劇団わらび座の三味線奏者として活動の後独立。その後宮城県白石市に拠点を移し、伝統曲・自作曲を織り交ぜたソロ演奏の他、「和力」「三人十色」などのグループでも活動。世界的な民族音楽フェスティバル「WOMAD」をはじめ、これまでに20ヶ国以上の音楽祭などに招聘出演し好評を得る。津軽三味線の持つ力強さや独特のリズム・音色の多彩さを基にした自作曲にも定評がある。またエフェクターやループマシンを使った演奏表現も得意とし、様々な音色を駆使しながら独自の表現を求めて創作活動を続けている。

森 泰文

B型魚座、十勝在住の太鼓奏者。

主に八丈太鼓を叩く。

現在 中札内村の花舞太鼓 黒鴉（コクア）、帯広の まる太鼓のお祭りユニットKANTO、浦幌神社の和太鼓ユニットどんど鼓で活動をしている。

